

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

普通期水稲（中晩生品種）における トビイロウンカの防除対策の徹底について

10月1日に行った普通期水稲の定期調査において、トビイロウンカの幼虫が多数寄生している圃場を確認しました。また、一部の圃場では本虫による坪枯れの被害もみられています。

については、今後の被害の拡大を防ぐため、下記事項を参考に、各圃場での発生状況を確認し、防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生概況および今後の発生予想

- 1) 10月1日に行った水稲の定期調査(32圃場)では、トビイロウンカの発生株率は11.3%(平年24.1%、前年2.9%)であり、平年並である(図1)。ただし、発生株率が高く(表1)、増殖率が高い短翅型雌成虫(写真1)が散見される圃場もあり、一部の圃場ではイネの坪枯れの発生がみられている。
- 2) 県内の調査圃場以外の一部圃場でも、本虫によるイネの坪枯れの被害が確認されている。
- 3) 九州北部地方の向こう1か月の気象予報(福岡管区气象台9月25日発表)では、気温は平年より高いと予想され、トビイロウンカの発生に好適な条件となっている。このことから、今後、更に本虫が増殖するおそれがある。

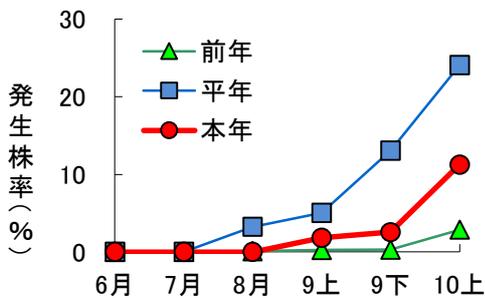


図1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生推移



写真1 トビイロウンカ雌成虫の短翅型(写真上)と長翅型(写真下)



写真2 株元に寄生したトビイロウンカ成幼虫(2025年10月1日撮影、幼虫を○で囲んだ)

2. 防除対策

- 1) 収穫適期を迎えた圃場では、速やかに収穫を行う。また、被害が出ており、収穫が間もない圃場では、収穫時期を早めることを検討する。
- 2) 中晩生品種では、これまでの防除状況(薬剤の種類や防除回数等)に関わらず、必ず各圃場の発生状況を確認する。寄生密度が高い場合は、表2を参考に収穫前使用日数及び使用回数等の農薬使用基準に注意し、臨機防除を実施する。
- 3) 本虫は株元に生息しているので、薬剤は株元まで十分かかるよう、丁寧に散布する。
- 4) 薬剤散布の際には、周辺作物への飛散防止に努める。
- 5) 防除対策の詳細については、「佐賀県病害虫総合防除計画」を参照する。

表1 普通期水稻におけるトビイロウンカの発生状況
(2025年10月1日、各圃場25株調査)

	寄生株率	最高頭数 ^{注1)}		幼虫の齢	短翅雌成虫確認(○)	坪枯れ確認(○)
		成虫頭	幼虫頭			
A ①	4	1				
B ①	40	3	3	中	○	
②	40	2	2	中	○	
③	0					
④	8	1			○	
C ①	0					
②	0					
③	0					
④	0					
D ①	12		3	中・老		
②	0					
③	0					
④	0					
E ①	0					
②	0					
③	0					
④	0					
F ①	0					
②	4	1				
③	0					
④	4	1				
G ①	0					
H ①	12		1	老		
②	0					
③	0					
④	0					
I ①	36	1	25	中・老		
②	8	1	1	老		
③	0					
J ①	0					
②	92	1	18	中・老		
K ①	100	10	150	中・老	○	○
発生圃場率	37.5					
平均発生率	11.3					

注1) 25株調査のうち最も寄生の多かった株の寄生頭数を示す

表2 トビイロウンカの本田施用剤(令和7年10月2日現在)

農薬名	有効成分	使用時期	有効成分を含む農薬の総使用回数
エクシードフロアブル	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内
エクシード粉剤DL	スルホキサフロル	収穫7日前まで	3回以内
エミリアフロアブル	フルピリミン	収穫7日前まで	2回以内
トレボン乳剤	エトフェプロックス	収穫14日前まで	3回以内
トレボン粉剤DL	エトフェプロックス	収穫7日前まで	3回以内

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840-2205 佐賀市川副町南里1088

TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

防除のてびき掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

防除セQRコード*



てびきQRコード*

